

ややこしい  
ややこしい

～パフエと  
サンデー～

芳田尚哉

## パフェとサンデー

---

「おい、パフェ食べに行こうや」

男が若い男に言った。

「パフェですか。まだ昼間やないですか」

若い男は不思議そうな顔で訊いた。

「昼間やったらあかんのけ。熱いし食いたいから食うのがあかんのか。昼間に食ったらあかんいう法律でもあるんか」

「法律ちやいますけどね、昼間にパフェは不可能ですねん」

「はあ？ なに言ってんねん」

「なんでもいいですから、サンデーでええなら行きましょか」

「サンデー？ なんでそんなもん食わなあかんねん。わしはパフェが食いたいんや。誰がサンデーなんか食いたい言うた」

男はそろそろ我慢の限界か。かなり苛立っている。

「わかりました。パフェやったら、もうちょっと待って、日が暮れたら行きましょ」

「アホ！ どアホか、お前！ わしは今食いたい言うてんねや！」

やれやれと若い男はため息を吐く。

「兄さん、昼間にパフェはありませんのや」

「なに言うてんねん。ファミレスとかにあるやんけ。ちゃんとメニューにあるぞ。お前はあれがパフェちゃう言うんか。ほんなら、女子高生が学校帰りに制服でパクついてんのはなんやねん」

男の熱弁に若い男は啞然となる。

「なんですのん、その妙に偏った知識」

「なんでもええねん。とにかくパフェやパフェ」

「せやから、夜まで待ってくださいって」

「さっきからなんで夜やねん」

「あのですね。パフェいうんは、夜食べるものですねん」

「そんなもん、誰が決めたんや！ どこの法律じゃ！」

「わがまま言うてる子どもちやいますねんから」

「うっさいわ。早よ行くぞ。しまいにやしばくぞ」

「落ち着いてくださいって。パフェは夜にしかー」

「さっきからなんでやねん」

「せやから説明しますやん」

「早よせいや。こっちはパフェ食いたいねん」

「パフェは夜に……」

「せやからなんでやねん」

「兄さん、怒りませ。これからそれを話すんやないですか。黙っとってください」

「わ、わかったわ」

「それでええんです。パフェは夜に食べるもので、昼間に食べるもんはサンデー言うんです。基本的には同じもんですけどね」

「同じやったらええやんけ。なんでやねん」

「時間帯で呼び名が変わるんです」

「なんじゃ、そのへんちくりんなのは」

「へんちくりんって……」

「同じもんやったら同じでええやんか。なんで名前変わんねん」

「説明するとちょっと長くなりますけど、ええですか？」

「長いんか？」

「それなりに。昔々、教会で日曜に……」

「長なるんやったらええわ。わしはパフェが食いたいだけなんや」

「もうええですわ。パフェでもサンデーでも、兄さんにはおんなじなんでっしゃろ」

「なんやその言い方。まるでわしが頭の悪いガキみたいやんけ」

「……………」

「なんや、なんか言えや。そこは、ちゃうって言うところやろ」

「そうですね。兄さんは頭の悪いガキちゃいます」

聞き分けのない大人です、と心の中で付け加えた。

F i n o .

ややこしいややこしい～パフェとサンデー～

<http://p.booklog.jp/book/110254>

著者：芳田尚哉

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/studiosaix/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/110254>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト